

学芸館

にちよう

◇ 部長から一言 ◇



楽しむこと大切に

部長 橋本さん(1年生)
電気部では、木材だけでなくアルミも切断できる棒のこや、板に穴を開けるホールソーなどさまざまな工具を使います。最初は使いどころか、名前も分からなかったけれど、先生に教えてもらいながら使えるようになり、達成感があります。

大会に向けてロボットを作る以外にも、文化祭や地域のイベントに出展するために、自分たちや他校の先輩が製作したロボットをメンテナンスします。スムーズに動くように油を塗し、配線を付け直します。来場者の楽しそうな表情を見た時や、「ありがとう」とお礼を言われた時はうれいします。

部長は1年生しかいません。個性豊かなメンバーで自由にものづくりをしています。人を楽しませるものづくりには、まずは自分たちが楽しむことが大切だと思います。

- ▶ 創部年より1分1秒
- ▶ 部員数16人(1年生6人)
- ▶ 近年の主な実績(1)全国高校生ロボット競技大会出場(2019年)
- ▶ 無学年工業クラブロボコン競技大会1位(2021年)

文化祭でロボットキッズイベントで展示する部員たち



修理したおむすびを渡し、開会に出席される部員(右)とO年、小坂マリヤ副部長



修理したおむすびを渡し、開会に出席される部員(右)とO年、小坂マリヤ副部長



1年生で挑んだ県ロボ大会

9月の県高校工業クラブロボット競技大会で、小坂高電気部は、10チーム中5位に入り健闘した。大会後は各校の部員が「ロボットを見せてください」と写真撮影を求めたという。

大会は、自作のロボットでコートに設置した対象物を運んだ数を競う。電気部は、空気圧で動く型と無線で動く型の2機を製作。作業を率いた部長の亀田悠太さんは、縦3位、横2位総の2位のコートを作るため、電線のこぎりで手際よく木材を切断した。

プログラミングを担当した副部長夏(ここな)さんは、光の加減や板の滑り方に合わせ、臨機応変にプログラムを書き換えるまでに上達した。部活科の神田叶花(かのか)さんは、産業工学科に在籍する他の部員に交じって奮闘。最初はいびつだったはんだ付けも、こつこつ練習してきれいに接着できるようになった。

経験浅くても健闘

「実力を発揮できてはっとした」とロボットを操作した佐藤裕聖さん。掃除機のように対象物を吸い込むなど、他校の高性能さに緊張が高まったが、直前に校長をはじめ全校生徒の前で行った予行練習が生きた。

試行練習し、一から大会に挑んだ部員たち。これからも、できることや好きなことを少しずつ増やし、経験を積み重ねていく。



大会でロボットを操作する佐藤裕聖さん=9月、同校提供

ものづくり、地域に笑顔

小坂町の小坂高電気部が、地元文化祭「20周年文化祭」の展示ブースに製作したクレーンゲーム機が、訪れた女の子が熱中していた。部員たちは「ゲームの動きをよく見て、遠征にはボタンを離さないように」とアドバイス。ゲームを後援に動かし、見事おむすびをゲットすると、女の子は笑顔になって喜んだ。



小坂高電気部

月の県高校工業クラブロボット競技大会に出場した際のロボットを展示。子どもたちも楽しめるおむすびロボットを制作した。子どもたちも「おむすびロボットを操作して、おむすびをゲットしたい」と目を奪われて、手を止まらず操作の調子が狂ってしまった。



部員は全員1年生で、中にはまだ高校生活に慣れない生徒もいる。部員は「おむすびロボットを操作して、おむすびをゲットしたい」と目を奪われて、手を止まらず操作の調子が狂ってしまった。

部員は、ものづくりを通じて地域に貢献する意義を、体験的な学習に力を入れている。電気部も地域に貢献するものづくりを掲げ、今年度は、初年度の新規行事「アカンアムス」に出展。クレーンゲーム「アカンアムス」に出品。クレーンゲーム機で「おむすび」をゲットして来場者を楽しませた。

副部長(右)は、部員たちを指導する。おむすびロボットは、おむすびを吸い込むように対象物を吸い込むなど、他校の高性能さに緊張が高まったが、直前に校長をはじめ全校生徒の前で行った予行練習が生きた。試行練習し、一から大会に挑んだ部員たち。これからも、できることや好きなことを少しずつ増やし、経験を積み重ねていく。

(学生会提供)